

## 「3D Bone Atlas Database」公開のお知らせ

### 1. 「3D Bone Atlas Database」の概要

日 時：2015年12月1日（火）より公開

内 容：3D Bone Atlas Database（3次元立体骨格図）をインターネット上で公開する

URL：http://www.nabunken.go.jp/research/environmental/gaiyo.html

※奈良文化財研究所ホームページのデータベース一覧にもリンクしています。

### 2. データベースの概要と期待される効果

- ・哺乳類の主要骨格部位の立体的な骨格図
- ・遺跡から出土することの多い哺乳類（ヒト、イヌ、イノシシ、ニホンジカ、ウシ、ウマ）を収録
- ・あらゆる角度から骨格部位を表示できるため、骨の形態を容易に把握できる。
- ・汎用性のあるPDF形式のため、誰でも簡単にダウンロードして利用できる。
- ・考古学、人類学、動物学、古生物学だけでなく、博物館や学校での教育資料としても活用可能

### 3. 公開までの経緯

- ・環境考古学研究室では、これまで松井章前埋蔵文化財センター長を中心として、現生動物の骨格標本を収集し、現生動物の骨格図譜集を『動物考古学』（京都大学学術出版会）を2008年に出版した。
- ・『動物考古学』出版後、菊地大樹（環境考古学研究室客員研究員）が進めていた3次元計測による立体的な骨格図譜の作成に成功したことから、その技術を応用した共同研究を開始し、当該データベース構築の準備に取り掛かった。
- ・松井前センター長が今年6月に逝去されたが、環境考古学研究室で共同研究を継続し、今回公開をすることになった。

### お問い合わせ先

奈良文化財研究所 埋蔵文化財センター 環境考古学研究室（担当：山崎・菊地）Tel：0742-30-6851

11月30日（月）に、環境考古学研究室で報道用に公開いたします。取材上必要な方はぜひご覧ください。

3D Bone Atlas Databaseの概要

## 3D Bone Atlas Database



### 最新情報

・2015年11月 3D Bone Atlas Databaseを公開しました。

### 本データベースについて

動物考古学研究室では、これまで松井章郎准教授文化財センター長を中心に、遺跡から出土する動物骨を分析するために必要不可欠な現生動物の骨格標本を積極的に収集し、それらを基にして『動物考古学の序引き』（奈良文化財研究所）や『動物考古学』（京都大学学術出版会）において、現生動物骨格図譜を公開してきました。しかし、高野に国内外の先住民墓などで図譜を利用してみると、複雑な形の骨格を平易な実測図で表しているため判読が難しく、見たい骨格が表裏されていませんでした。また、大量の骨格標本や図譜を高精度実測図に移すことが困難であるといった課題も浮かび上がってきました。

一方で、三次元計測技術がさまざまな分野の研究に振り入れられるなか、松井前センター長も早くからこの技術の動物考古学への応用を模索していました。そうしたなか、本研究室専員研究員である高野大樹が骨格標本の三次元計測をはじめ、データベース化への見直しをづけたことから、共同研究をスタートさせました。

このたび、遺跡から出土することが多い動物種の主要部位について、三次元計測による立体的な骨格図譜を作成しデータベース化しました。この図譜は、あらゆる角度から骨格部位を表示でき、骨の形状の特徴をこれまで以上に容易に把握できるようになっています。また、このデータベースのファイルは、汎用性のあるPDF形式となっているため、どなたでも簡単にダウンロードして利用できます。これを、現生骨格標本を直接利用できない考古学研究者だけでなく、動物学や畜産生物学の研究者の皆さまが、広く活用してくださることを期待しています。

概要 Summary

ヒト Human

イヌ Dog

イノシシ Wild boar

ニホンシカ  
Japanese sika deer

ウシ Cattle

ウマ Horse

奈良文化財研究所  
本庁舎運営について

なぶんけん  
ブロック  
コラボレーション

公開刊行物の閲覧  
こちら

国立行政法人国立文化財機構  
奈良文化財研究所（仮庁舎）

T 630-9577  
奈良市住吉町247-1  
TEL 0742-30-0733

3D Bone Atlas Database トップページ



立体的な骨格図譜（イヌの頭蓋骨）

※パソコンの画面上で好きな角度に回転できます